

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 住之江区

学 校 名 大阪市立南港桜小学校

学校長名 高岡 繁樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 98名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

・全国平均と本校との平均正答率、平均無解答率のポイント差は、以下のとおりであった。

○国語	平均正答率・・・	+0.3	平均無解答率・・・	-0.3
○算数	平均正答率・・・	-0.4	平均無解答率・・・	-0.1

・平均正答率は、国語では全国平均を0.3ポイント上回ったが算数は0.4ポイント下回った。昨年度は両教科とも全国平均を上回ったが、一昨年度まで算数は、今年度と同様に下回っていた。しかし、全国との差が着実に縮まっていることから、両教科とも全国平均と同等の学力がついてきていると考える。平均無解答率は国語で0.3ポイント、算数では0.1ポイント全国平均より少なかった。しかし、昨年度との比較では、両教科とも無解答率の上昇がみられた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

・「A 話すこと・聞くこと」以外の項目において全国平均を上回る結果であった。特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」においては全国平均を大きく上回っている。また、これまで苦手としていた「B書くこと」においても、昨年度と同様に全国平均を上回っている。日常的に書く活動を継続して学習に取り入れてきた成果である。「A 話すこと・聞くこと」においては、話し合い活動における発言者の固定化や、聞くことの重要性に対する認識に課題がみられる。

〔算数〕

・すべての領域のうち「D データの活用」以外の項目は、全国平均を上回るもしくは同等の結果であったことより、算数科における授業改善の成果が表れてきていると考える。その結果が、全国平均と同等の学力が定着してきたことにつながっている。しかし、四区分の割合から、学習理解の2極化傾向が全国との比較においても顕著であることが課題である。

質問調査より

昨年度からの大きな改善点として、「自分には良いところがあると思いますか」の項目があげられる。校内比較において、肯定的回答の割合が昨年度より7.5ポイント上昇している。また、全国との比較においても7.6ポイント上回る結果であった。これは、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に対しての肯定的な回答が4.8ポイント、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では6.0ポイント全国平均よりも高いことに由来していると考えられる。子どもたちは、満足感や安心感をもって日々の学校生活をおくれていることが、自己肯定感の向上につながっている。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」では、対全国比で0.1ポイント下回っている。課題として、キャリア教育の充実を通して、子どもたちが将来像の具体的なイメージをもてるようにすることがあげられる。

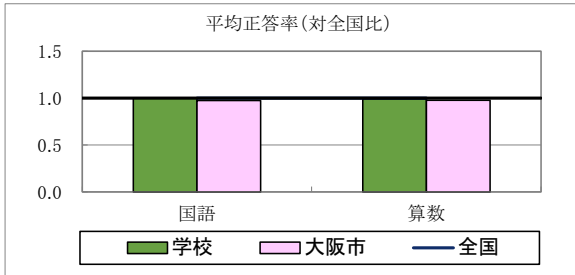
今後の取組(アクションプラン)

- ・理解度の二極化改善のため、コグトレを用いて基礎的・基本的学習内容の定着を図る。
- ・既習内容を活用できる力を高めるため、教科横断的な学習内容の工夫を図る。
- ・話型のひな型の工夫を通して、話し合い活動における発言者の固定化改善を図る。
- ・聞き取りの要約や聴写などを積極的に学習に取り入れることで、聞く力の向上を図る。
- ・サポーター等を活用し、個の課題に応じたきめ細かな支援体制の一層の充実を図っていく。
- ・本校の課題のひとつである学校以外での学習時間の確保に向け、家庭での学習課題やICT機器の活用の工夫に継続して取り組む。
- ・キャリア教育の充実を図るため、各学年で外部講師による発達段階に応じた出前授業などを積極的に取り入れる。

【 全体の概要 】

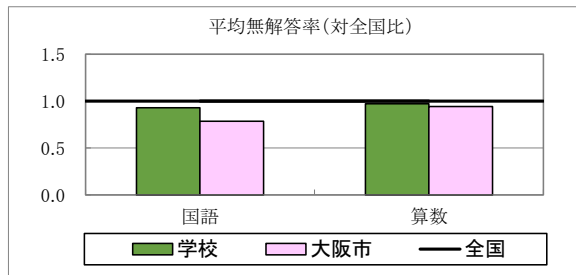
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	68	63
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	3.9	3.3
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



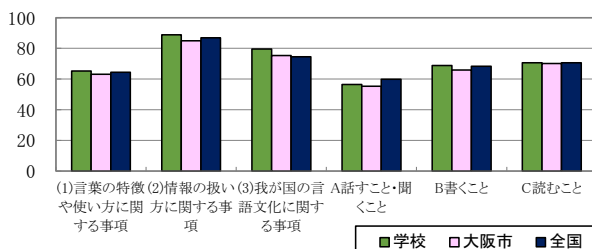
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	65.3	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	88.8	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	79.6	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	56.5	55.3	59.8
B 書くこと	2	68.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	70.7	70.1	70.7

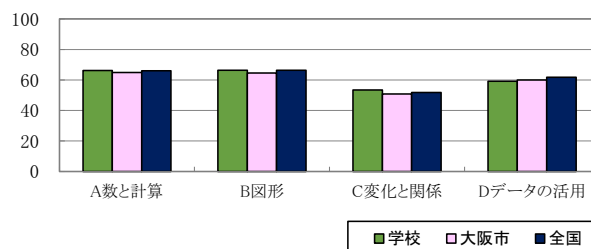
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	66.2	64.8	66.0
B 図形	4	66.3	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	53.4	50.8	51.7
D データの活用	4	59.2	60.0	61.8

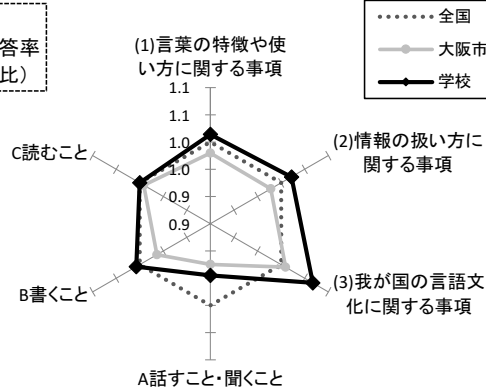
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



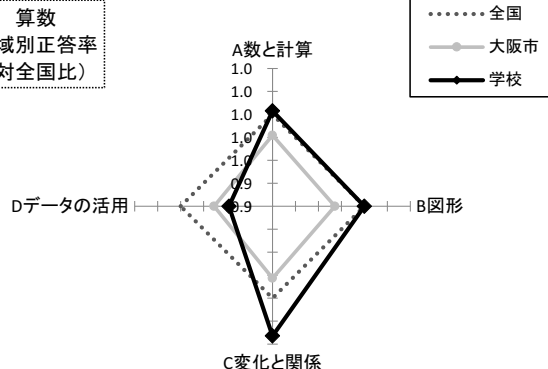
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



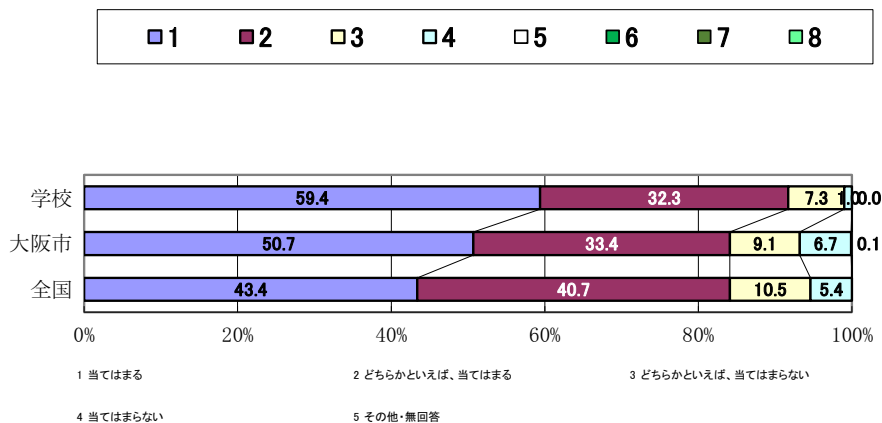
児童質問より

質問番号

質問事項

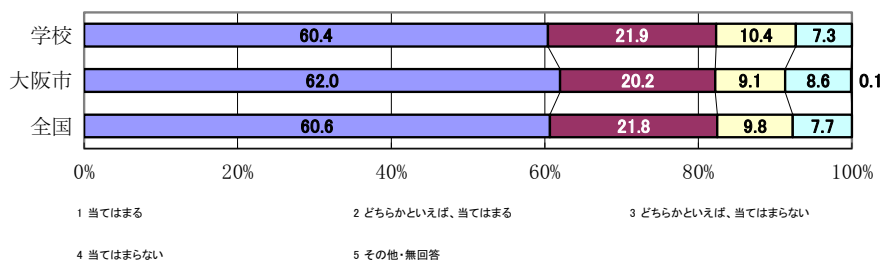
9

自分には、よいところがあると思いますか



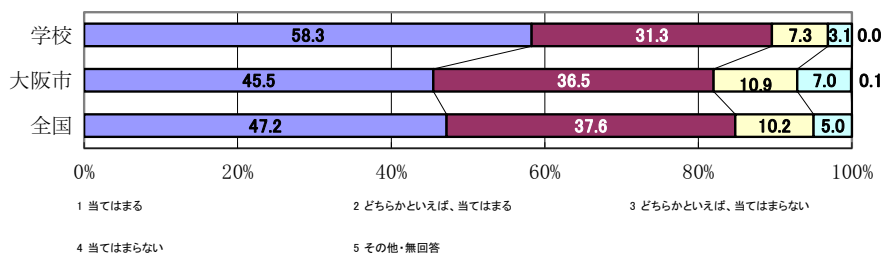
11

将来の夢や目標を持っていますか



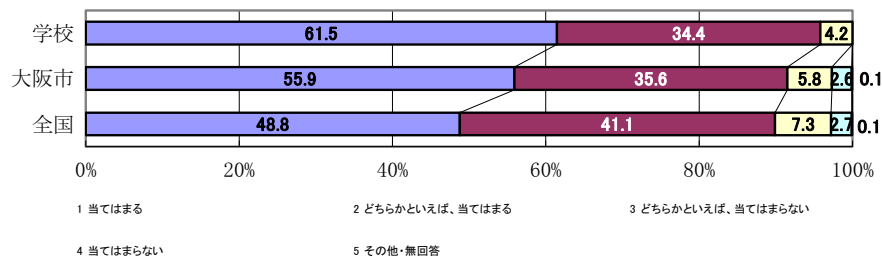
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



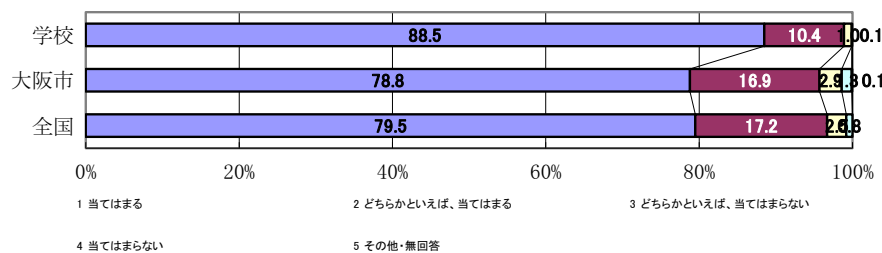
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



学校質問より

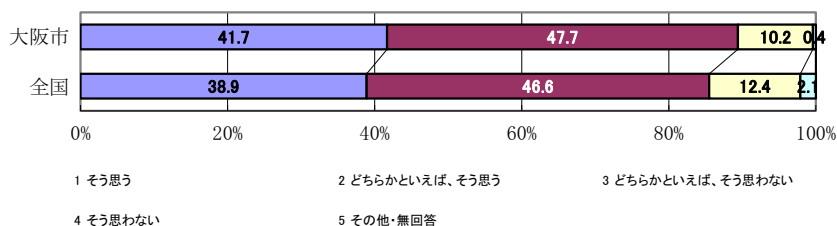
質問番号

質問事項

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



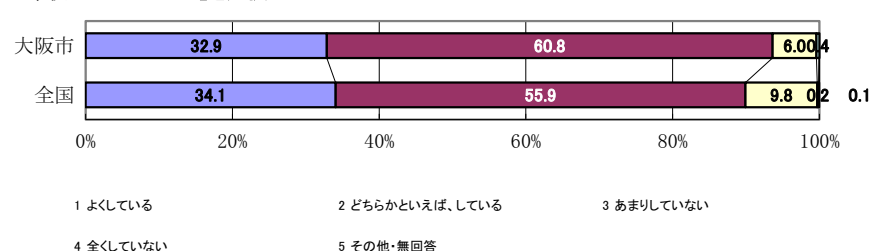
学校 「そう思う」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

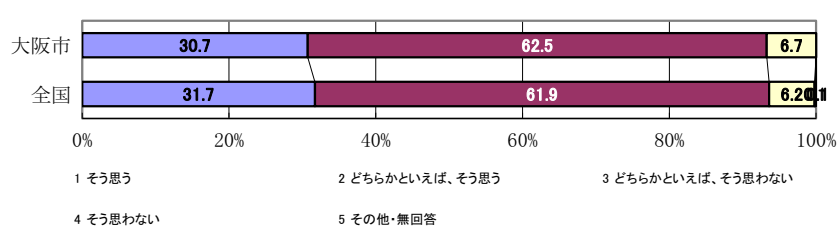
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

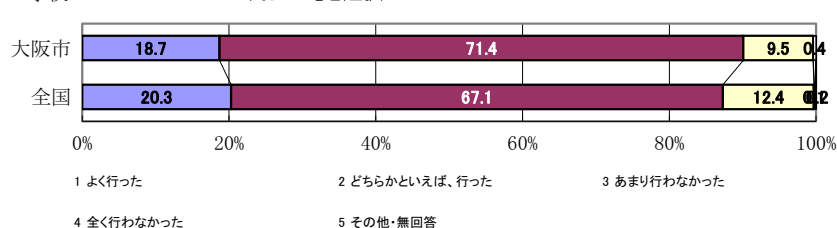
学校 「そう思う」を選択



34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「よくしている」を選択

